

課題名	硫黄剤、クレフノン散布青島系温州の低温遭遇試験																							
成果の要約	着色期に硫黄剤及びクレフノンを散布した果実に、収穫直後低温処理を行うと油胞黒変症が多くなった。																							
成績概要	散布時期と回数																							
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">散布薬剤 散布時期 処理</td> <td style="text-align: center;">石灰硫黄合剤 120 倍 + 水和硫黄 500 倍</td> <td style="text-align: center;">石灰硫黄合剤 100 倍 + クレフノン 50 倍</td> <td style="text-align: center;">石灰硫黄合剤 80 倍 + クレフノン 50 倍</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">11月5日</td> <td style="text-align: center;">11月13日</td> <td style="text-align: center;">11月19日</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 回 散 布</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3 回 散 布</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">無 散 布</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>	散布薬剤 散布時期 処理	石灰硫黄合剤 120 倍 + 水和硫黄 500 倍	石灰硫黄合剤 100 倍 + クレフノン 50 倍	石灰硫黄合剤 80 倍 + クレフノン 50 倍		11月5日	11月13日	11月19日	1 回 散 布	—	○	—	3 回 散 布	○	○	○	無 散 布	—	—	—			
	散布薬剤 散布時期 処理	石灰硫黄合剤 120 倍 + 水和硫黄 500 倍	石灰硫黄合剤 100 倍 + クレフノン 50 倍	石灰硫黄合剤 80 倍 + クレフノン 50 倍																				
		11月5日	11月13日	11月19日																				
1 回 散 布	—	○	—																					
3 回 散 布	○	○	○																					
無 散 布	—	—	—																					
(1) 果皮の色調は3回散布区においてa値(赤色度)が高く、D値(黄色度)が低い傾向にあったが、無散布区に対して有意差は認められなかった。																								
(2) 色差は1回散布区、3回散布区ともに無散布区に対して「認め得る」の範囲であったが、3回散布は着色がよく、1回散布は着色が劣った。																								
(3) 油胞黒変症の発生は、1回散布区において発生率が最も高く、無散布区で低かったが有意差は認められなかった。																								

第1表 果皮の色調

処 理	赤 道 部			果 頂 部			果 梗 周 辺 部		
	L	a	b	L	a	b	L	a	b
1 回 散 布	6 2.8	2 3.5	3 9.0	6 0.7	2 3.6	3 9.1	5 8.9	2 0.8	3 4.4
3 回 散 布	6 1.2	2 5.6	3 8.4	5 9.4	2 5.8	3 8.1	5 9.1	2 2.2	3 4.0
無 散 布	6 2.0	2 4.4	3 9.3	6 0.2	2 4.5	3 9.1	5 8.3	2 1.2	3 5.8
有 意 性	処 理	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS	※
	反 復	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS
	無 散 布 : 1 回 散 布	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS	※
	〃 : 3 回 散 布	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS	※※

第2表 無散布との色差(ΔE)

処 理	赤 道 部	果 頂 部	果 梗 周 辺 部
1 回 散 布	1.3	1.7	1.7
3 回 散 布	1.5	2.0	2.6

$$\Delta E = \sqrt{\Delta L^2 + \Delta a^2 + \Delta b^2}$$

ΔE	感 覚 的 な 差
0 ~ 0.5	ごくわずか
0.5 ~ 1.5	わずか
1.5 ~ 3.0	認め得る
3.0 ~ 6.0	明らか
6.0 ~ 12.0	大きい
12.0 以上	非常に大きい

第3表 硫黄剤・クレフノン散布と油胞黒変症の発生

処 理	発 生 率 (%)	発 生 程 度 (%)			発 生 指 数	
		軽	中	甚		
1 回 散 布	4 0.3	1 4.0	1 9.0	7.3	2 6.3	
3 回 散 布	1 8.0	1 0.7	5.3	2.0	9.8	
無 散 布	1 4.6	8.0	3.3	3.3	8.2	
有 意 性	処 理	NS	-	-	-	NS
	反 復	NS	-	-	-	NS
	無 散 布 : 1 回 散 布	NS	-	-	-	NS
	〃 : 3 回 散 布	NS	-	-	-	NS

$$\text{発生指数} = \frac{(I) + (II) \times 2 + (III) \times 3}{3 \times \text{全果数}} \times 100$$

- I …… 軽の果数
- II …… 中の果数
- III …… 甚の果数

成

績

概

要

そ
の
他

昭和57年度長崎県果樹試験場成績